

会報第60号

矢板市文化財愛護協会

ふるさと矢板

発行者 矢板市文化財愛護協会
会長 白石哲夫

事務局 矢板市教育委員会
生涯学習課文化担当

平野焼の一考察

(白石哲夫)

昨年の暮れに、突然「平野焼を復元したい」という頼もしい人物が現れました。彼は、四国にある施設に勤務しておりましたが、帰郷する度に活気が失われていく本市の姿を感じ取っていたとのことでした。そこで退職を機に実家に戻り、本市の活性化のために平野焼の復元に挑戦したいと、その意気込みを語ってくれました。

そこで、今回はその平野焼について紹介させて頂くことと致しました。まず、平野焼を一言で言えば「益子焼より三年早く、しかも磁気を焼いた窯」なのです。つまり、今年で開窯百七十四年を迎えることとなります。これについては、その裏付けとなる古文書が三通あり、現場には連房式登り窯跡が確認され

ています。また、今でも平野行政区内の旧家には水瓶や皿などが遺されています。

今年の十月までには試作品を完成させたいとのことですが、どんなものが出来上がるのでしょうか楽しみにしています。

史料として、三通の古文書と陶片を載せておきましたので、ご参考までに。



平野焼窯跡



寺山白土堆積場跡 (寺山鉱泉前)



平野焼陶土産出地